



グリーンレター Green Letter

Green Column グリーンコラム

01 水槽の中から菌が見つかった

02 大通の風景から歴史を探る

Vol.329

2024/11/01



町田善康《ベニテングタケ》

Photo 今月の1枚

派手な見た目から、絵本などに登場するベニテングタケ。見た目の印象通り、毒キノコです。毒の主成分はイボテン酸で、食べると腹痛や嘔吐などの症状を引き起こします。一方、イボテン酸はうまみ成分であることから、毒だと知りつつ食べる人もいます。しかし、微量ながら致死成分も含まれることから、食べないでいただきたい。(町田善康)

水槽の中から 歯が見つかった

写真・文／町田善康

美幌博物館を訪れると真っ先に見えてくるのが、ロビーにある大きな水槽です。この水槽では、町内で見つかるさまざまな魚を飼育してきました。ここ数年間は、網走川で捕まえたコイやフナを飼っています。

さて、生き物を飼う場合、必ず餌をあげます。しかし、餌の食べ残しや糞によって、コケが生え、水が濁ってしまうと、お客さんが見られなくなるので、定期的な掃除が欠かせません。1～2週間に一度、掃除しているわけですが、それでも落ちない汚れは、定期的に、水槽から魚を出し、水を抜き、砂もきれいに洗って大掃除をしています。この大掃除は、とても大変なので何名かのスタッフに手伝ってもらいます。そんな作業の最中、砂を洗っているスタッフが、「歯がありました」と言ってきました。そんな馬鹿なと思いつつ、見ると人間の奥歯そっくりなも

のがあるではありませんか。それも2本も。

人間だったら乳歯が抜けた時には、歯の成長を願って、屋根や縁の下に投げることはあっても、まさか水槽の中に入れることはないでしょう。では、誰の歯かというと、コイの歯だったんです。実は、コイやフナを含むコイ科魚類は、食べたものをすりつぶすため、咽の奥に歯のような器官「咽頭^{いんとうし}歯」を持っています。この咽頭歯があるおかげで、コイは硬い貝やエビなどを噛み砕いて食べることができるのです。また、咽頭歯は、定期的に生え変わるようで、今回の掃除でたまたま見つかったのだと思います。私も初めて見た咽頭歯。面白いので、しばらく水槽の前に展示したいと思います。

大通の風景から 歴史を探る

写真／美幌博物館収蔵・文／八重柏 誠



特別展「フィルム振り返る美幌の歴史」は、多くの皆様にご来館いただき、無事に終えることができました。今回、展示室に入っすぐの場所には、私のお気に入りの1枚を飾らせていただいております。昭和11（1936）年、大通北2丁目（現在の北洋銀行美幌支店前付近）を撮影したこの写真は、3輪車に乗った子供が、何かに気づいて振り返っています。特別展のタイトルを象徴するポーズだったのがお気に入りポイントです。この写真、可愛らしい子供に目が行ってしまいましたが、よく見ると当時の町の状況がよくわかる1枚となっています。

大通には多くの店が軒を連ねており、町が大きく発展したことが伝わります。道路には自動車が行き交っています。地方では自動車がまだ珍しい時代、一体どこにむかっていたのでしょうか。昭和9（1934）年に阿寒湖、

屈斜路湖、摩周湖がある一帯を阿寒国立公園として指定されました。天下の絶景と謳われた美幌峠をひと目見たい、そのような観光客によって、美幌駅は国立公園の玄関口として利用されるようになりました。そして、美幌駅からの移動手段として、写真の自動車が使われるようになったのです。車1台が通れる程度の細道だった美幌峠、エンジンを唸らせながら駆け上がって行ったのでしょうか。当時の車は故障も多く、いつ車が止まってしまうのかドキドキしながら峠に向かった、といいます。

美幌町と美幌峠は切っても切れない関係です。今なお、多くの人々を魅了してやまない美幌峠観光を象徴する、歴史的な1枚とも言える写真でもあります。

Exhibition 展示

企画展「交通安全ポスター作文展」

11月2日（土）～24日（日）

Event イベント

持ち物等は申込時にご確認ください

博物館講座（自然編）「動物写真家の仕事」

11/2（土）10:00～12:00

美幌博物館 2階 視聴覚室・無料

講 師／前川貴行氏（動物写真家）

対 象／中学生以上（小学生以下は保護者同伴）

申込み／不要。直接会場へお越しください。

プチ工房「ジェルキャンドル（冬バージョン）」

11/15（金）、16（土）10:00～12:00、14:00～16:00 自由入室で作品
ができ次第終了

美幌博物館 1階 講座室・700 円

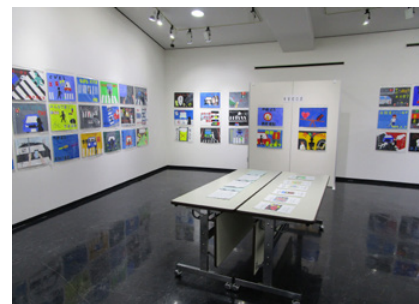
講 師／城坂結実（美幌博物館）

対 象／どなたでも（小学3年生以下は保護者同伴）

申込み／申込み不要

送付先の変更、または停止などをご希望の場合

お引越などでご住所が変わられた、あるいは送付を止めてほしいなどのご希望がございましたら、美幌博物館までお知らせください。



Tweet つぶやき

先日、不注意でスマートフォンを水没させてしまいました。一瞬だけ水に浸っただけだし、耐水性能があるはずだから大丈夫だろうと思っていたら、見事にタッチパネルの一部が反応しなくなってしまいました。仕方なく新しいものを買いましたが、とても高くて驚いています。（八重柏 誠）



美幌博物館月刊情報誌 Green Letter

【発行】美幌博物館

【デザイン】城坂結実

【編集】城坂結実

【お問合せ】美幌博物館

〒092-0002

北海道網走郡美幌町字美禽 253-4

Tel. 0152 (72) 2160

Fax. 0152 (72) 2162

